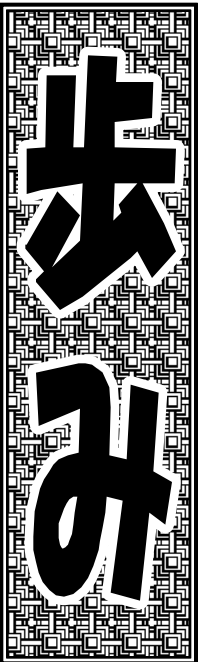


# 全港湾第90回定期全国大会



2019.10.5  
NO.633号  
全港湾関西地方  
阪神支部  
大阪市港区築港  
1-12-27  
06-6574-8424  
078-303-0800  
全港湾は一人  
でも入れます



9月11日・12日に、全港湾第90回定期全国大会が愛知県のシーパレス日港福（豊橋）で開催されました。総数237名のうち、阪神支部からは中央執行委員2名、代議員8名、特別代議員8名、傍聴19名が参加しました。議長団選出後、代表挨拶に立った真島中央執行委員長は「政治情勢、経済情勢、港湾情勢を含めて、多くの課題がある中で全港湾全員が同じ認識の中で運動を続けていかなければならない時代である。全港湾は特に各職場、各支部、各地方で討議を重ねて、より強固な結束力を続けることで70数年続いている。今回の大会でも様々な討議を経て、2019年度の方針に更なる補強をして頂きたい」と話されました。

また、自民党政権に対しても言及し、「格差問題、消費税増税、老後年金問題等、今の政治は国民の方を向いていない政策をとっている。労働者の権利を更に強化していくため、また、未来を明るく持てるような社会を築き上げるためにも全港湾が先頭に立って活動をしなければならぬ」と呼びかけました。

来賓挨拶に立った全国港湾の玉田書記長は「19春闘では産別統一回答問題、事前協議問題で真つ向から労使がぶつかり合う状況になり22年ぶりの平白ストライキにまで及びました。こうした問題の根底にあるのは、日本港運協会の姿勢の中に産別交渉体制を解消しようとした姿勢が見え隠れしたためである。このような状況では現情勢を乗り切るのは困難であるため、産別労使交渉体制を再構築し、1979年に締結した職域・事前協議制度で協定を行った5・30協定の原則を貫く方向で改めて、労使関係を強化しなければならぬ」と話されました。

さらに9月18日・19日に行われる全国港湾第12回定期大会での活発な討議を要請されました。

質疑討論では全体で43名からの発言があり、19春闘の進め方についてや、上組のスト破り、労働災害に対する意見等が出されました。阪神支部からも代議員5名が発言し（2面参照）、活発な討論がされました。

決議では代議員の無記名投票による年間スト権を確立し、2018年度活動報告及び2019年度の運動方針案、大会宣言案が提案され、満場一致で採択、確立されました。

役員改選はありませんでしたが、全国港湾の委員長代行を務めていた松本幸三特別中央執行委員が退任し、全港湾の顧問に就任しました。

在籍30年組合員表彰で阪神支部からは11名が表彰され、真島委員長の団結カンパロで散会しました。



全港湾中央執行部



全国から総勢237名が参加



女の子の作文がある。兄の机を拭いていた母が金魚鉢を落として割ってしまった。「もつと気がつければよかった」。母が謝ると兄は言ったという。「端っこに置いていた僕が悪い」。女の子が勇気を出して伝えた。「実は危ないなと思ってた。言わなかった私が悪い」。最後に父が「丸いのでなく、四角い金魚鉢を買ってあげば」と反省し、作文は終わる。原発事故のあと、福島県飯館村の菅野典雄村長が広報誌のコラム「こころのぼけ」とでこの作文を紹介している。「もつと気がつければよかった」。あるいは「危ないな」。本当にだれ一人として、そう考えなかったか。判決が出たあともなお、そのもやもやは消えない。東京電力の旧経営陣3人に「無罪」が言い渡された。原発事故対策を怠り、多くの人を死亡させた罪に問われた裁判である。あんな大津波はとも予想できない、とする3人の主張に判決はほぼ沿った。そうだとしてもやはり、事故は防げなかったかと疑問が残る。事故で強いられた過酷な避難行で、力尽きていった命がある。「仕方がなかった」ではだれも浮かばれない。

# 大会発言

19春闘のたたかひの中で、日曜日の反復24時間ストライキや22年ぶりとなる平日ストライキを決定したが、神戸のPC18上組においてスト破りがあった。全国ストに対するスト破りは明確で、労働組合として上組に対し、断固とした行動が必要だ。



19春闘のたたかひの中で、代議員数は中執で決定し、基礎ベースを変えず登録人数割をすべきである。

副委員長 中山 寛治郎

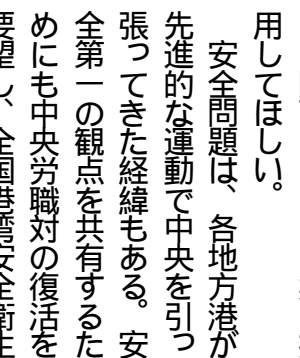
通過貨物について、内陸倉庫の作業単価の低さから更なる合理化が懸念される。阪神支部では、インランドデポの視察を当該倉庫に要請しているが拒否され続けている。中央本部として内陸倉庫の実態調査を行うて欲しい。

書記次長 久保田 稔



独占禁止法の問題について、中央労働委員会のあっせん案は独禁法に抵触しないので申し立てを取り下げべきでなかった。日港協を不誠実団体として中央労働委員会で徹底的にたたかすべきだ。

全国港灣の規約について



ターミナル渋滞解消策として、情報の一元化のシステムコンパス、シャーシの共有化、T化などでターミナルの自動化に拍車がかかるのではないかと海コンの横転事故について、ほとんどがドライバーの不注意が原因とされているが、偏加重による横転事故も払拭できない。正確な偏加重が探知できる3Dスケールを設置導入してほしい。

副委員長 松本 栄二



働き方改革実行計画で厚労省では2018年1月にモデル就業規則を改定

## 大会初参加者の感想

はじめて定期大会に参加させていただきました。分会から勉強にと定期全国大会に参加しましたが、北は

北海道、南は九州沖縄の全国の地本の代表の方々が代議員や特別代議員として、各地方の問題や全国に関係

険の支払い対象としていないが、その他の保険でカバー出来ることから、関西では被災者の最大限の保護あるいは最悪の場合、遺族の生活を支援する観点から2016年労災企業補償の改定で支払い対象とした経緯がある。中央でまとめるなら関西でまとめた案を採用してほしい。

し、副業・兼業について規定を新設している。副業・兼業には労働者がキャリア形成や、所得の増加など、また企業にとっても優秀な人材の獲得・流出の防止等で競争力の向上が期待できるメリットがある一方で、労働者の長時間労働が懸念され、健康や心身を害されるおそれがある。また、複数の職場で就労し、労災事故等が発生した場合、いずれの企業がその責任を負うのかも明確でなく、労災適用範囲に疑問がある。

指定事業者の問題は、法廷闘争と合わせ、労働組合としての行動をとっていく。早期解決に向けて引き続き支援をしていただきたい。

書記長 河野 昭宣



ある問題を提起されてしまった。自分の知らないところで自分たちの問題を真剣に議論されて働きやすい職場やルール作りに向けて、真剣に議論されているのを目の当たりにし、心強く思いました。

菱倉運輸分会 辰野 一樹



初めて全国大会に参加させて頂いて、全国の各地方から多くの組合員が参加し、大会の規模の大きさに驚きました。その中でも、19春闘、港湾ストライキについて多くの方から意見があり、その他にも質疑応答の多さに驚きました。すごく勉強になりました。

大運分会 中村 洋祐



私は初めて全国大会に参加させてもらいました。237名という参加者の多さ

にも驚きましたが、全国からの様々な意見や、質疑の多さに圧倒されました。大会の最後には真島中央執行委員長の熱のある「団結力ンパロー」で締めくくり、たいへん身の引き締まる思いでした。全国からご参加の皆様、2日間大変お疲れ



様でした。

執行委員 田中 英夫

## ことばの三二辞典 日韓請求権協定

1965年、日本政府と韓国政府が国交を樹立するに日韓基本条約と同時に締結された日韓請求権・経済協力協定の事。

を命じる判決を下した。これに対し安倍首相は元徴用工の請求権は日韓請求権協定によって解決済みとし、「国際法に照らしてあり得ない判断だ」と述べ、韓国を非難した。

だが、国家間で解決されたとしても、個人の請求権を消滅させることはできない。これは、日本政府が過去に繰り返す言明し、日本の最高裁判決でも示されたことだ。

日韓請求権協定は、西国間の請求権に関する問題解決と経済協力増進をめぐり、日本から韓国への生産物・役務の無償供給、貸付などを取り決めたもの。しかし、何に對する「請求権」なのか書かれていない。協定の交渉過程で日本政府は植民地支配の不法性を認めず、謝罪も反省も行わなかったのである。

日本で強制的に働かされた韓国人の元徴用工が日本の企業に賠償を求めた裁判で、韓国の最高裁は2018年10月、日本企業に賠償

# 関西地本第74回定期大会 阪神支部代議員 大会の議論をリード

8月28日・29日、大阪港湾労働者福祉センターにて関西地本第74回定期大会が開催されました。代議員65名、執行部15名、傍聴45名の総勢125名が参加しました。

開会の挨拶に立った宇野副委員長は、政府発表の公的年金の財政検証報告について、「30年後には年金の受取額が2割減少する」と批判し、「参院選で与党は勝利したと言っているが、前回より票数が減っている。投票結果は、現政権に対する

不満の表れであり、政治を変えたいの思いだ。しかし、この声を（野党が）まとめきれないのが現状であり、この国民の声に応えるためにも全港灣の組織を大きくし、政権の転換につなげよう」と呼びかけ「今大会での多くの発言を願います」と締めくくりました。その後、議長に道下拓也（阪神支部）、関谷和人（大阪支部）の両名により議事が始まりまし

長、中央本部より真島委員長が挨拶を行い、この間の政治情勢や19春闘をめぐる22年ぶりの月曜日のストライキ行動、産別最賃をめぐる問題点などを詳しく述べられました。来賓は、民主党より大橋ゆうこ氏、立憲民主党より尾辻かな子・長尾秀樹衆議院議員が来られ、それぞれ参院選に対するお礼の言葉が述べられました。また友誼団体として大港労協の三宅事務局長より、日港協の変質や大阪での箱物行政に対する失敗などを厳しく指摘し、たくさんのやらなければならない運動があるとの力強い挨拶がされました。

討議は全体で延べ15名からの発言がありました。意見としては、産別最賃問題が一番多く、週休二日制や定年延長、入札制度などの制度要求、長時間労働や雇用職域に関する問題等々、幅広い意見が出されました。阪神支部からは8名の代議員からの発言があり、大会の議論をリードしていました。



代表挨拶に立つ大野委員長

執行部より提案された第1号議案から第6号議案まですべて全体の拍手で採択されました。そして、特別決議として「消費税10%増税反対、二度増税ストップをめざし広範な共闘でたたかう決議」、「カジノ建設反対・大阪港を博打場にす

るな！松井、吉村両首長の即刻退陣を求める決議」の2本が採択されました。

閉会挨拶に立った真山副委員長は、2018年のコロナテナ港灣取扱量上位100港の状況や港灣労働者を取巻く労働条件にふれ、港灣の自動化や機械化に伴い、港灣運送事業法が形骸化されようとしていると告

ました。最後に大野進委員長が「5・30協定」に事前協議制や職域問題での縛りがあり、学習の場が必要であると強調されました。

副委員長 谷口 利之

## 全国港灣第12回定期大会

9月18日・19日の2日間、わたり全国港灣第12回定期大会が豊橋シーパレスにて開催されました。全国から300名を超える仲間が集り、阪神支部からも執行部12名が参加しました。

糸谷委員長は開会の挨拶で、「300名以上の参加者の多さに執行部として感謝申し上げる。12年目に突入していく全国港灣で新年度に向け、各々の組織で議論された内容が反映できる大会にしたい」と述べられました。

執行部答弁として、「不誠実団交を訴えていく議論を続け、団結できる答えを出したい」としました。

総括答弁で糸谷委員長は、「各単組・地区港灣の意見集約を行い執行部にて更に議論を深め問題解決へと進めていくことを約束する」と述べられました。

職場から団結を強化し、労働条件を改善していく事を誓い、団結カンパニーにて終了となりました。

執行委員 池口 光洋

## 主張

### 国民の声は「改憲」ではない！ 社会保障こそが急務！

しかし、国民は先の参院選で、自民党などの「改憲勢力」に3分の2の議席を与えています。

共同通信の世論調査でも、安倍首相の下での改憲に「反対」が47・1%で、

「賛成」の38・8%を上回りました。内閣が優先して取り組むべき課題は何かについての質問では、「年金・医療・介護」が47・0%、「景気や雇用など経済政策」が35・0%で、「憲法改正」はわずかに5・9%です。「産経」とFNNの調査でも、内閣が最優先すべき課題は「社会保障」が34・0%、「経済対策」が22・6%で、「憲法改正」は4・7%しかありません。

安倍首相がめざす9条に自衛隊を明記する改憲を許せば、戦力不保持・交戦権否認の現行9条の規定が空文化・死文化し、自衛隊が文化・死文化し、海外での戦

争に参加することを可能にします。

財界団体の一つ、経済同友会の桜田謙悟代表幹事は内閣改造に先立ち、「痛みを伴う改革」を実行するよう注文を付けました。首相

に近い加藤氏を、社会保障を担当する厚労相に据えたのは、そうした「改革」のための布陣です。

「人生100年時代」などと盛んに宣伝しながら、国民の老後の暮らしは、投資や貯金の「自己責任」でなんとかしろという安倍政権の姿勢はあまりに無責任です。年金の給付が減り続ける仕組みは、長寿社会の土台を揺るがすものです。

いま必要なのは危険な改憲ではなく、国民が不安に思っている社会保障の拡充にこそ焦点を当てていくべきです。

# 神戸港CⅠ災害防止協議会懇談会 未然事故防止の徹底 ヤード内の安全運転を！

労働対では例年海コンドライバーの安全問題や快適な業務に向けた取り組みを行っています。

8月22日には神戸港コンテナターミナル災害防止協議会を訪問し、安全なターミナル運営に向けての議論を交わしました。

昨年引き続き、構内走行車両やトランスレーターの安全な運行と、路面修繕箇所や不明瞭な表示の見直しを具体的に説明し、改善を要請しました。

過去にはマーシャリング車両との接触により大怪我をしたといった事例もありませんが、ターミナル側からモ外来車両のスピードや一時停止についての指摘があり、組合側としても改善する必要がありますとの認識を持

ちました。皆さんもターミナル内では事故防止に向けての安全な走行に努めて下さい。

これらに加え、自然災害が発生した場合についても議論し、人命を最優先に考えた避難訓練の実施なども要請しています。

**トラック4メーカー  
技術・性能意見交換**

また、9月6日にはトラック4メーカー・ディーラーを訪問し、主にトラックヘッドの安全性・快適性・利便性についての懇談を行っています。

衝突軽減ブレーキや車線逸脱防止機能などの安全装備が標準化されてきており、各メーカーの努力が伝

わってくる内容でありました。また快適性についてもそれぞれ特色を持った技術を駆使し独自性のある車両造りにはげまれています。

## テレビで会えない芸人 「松元ヒロ」

たいなどの声も上がり、メーカー側からもユーザーの意見の実現に向けて努力していきたいとの返事をいただき懇談を終えています。

8月24日神戸市勤労会館大ホールに於いて、9条の心ネットワークと兵庫労連共催による、芸人「松元ヒロソロライヴ」が開演されました。「テレビで会えない芸人」として注目され、公演チケットも入手困難になっているほど今話題になっています。

松元さんは1952年に鹿兒島県で生まれ、現在66歳。パントマイマーとして芸歴を重ね、1988年にはお笑いグループ「ザ・ニュースペーパー」を結成しました。


しかし、恩師であるパントマイマーの故マルセ太郎さんの影響を受け、グループを脱退し、ソロ芸人として活動を始めました。政治、社会を風刺し、軽快な話術と鋭くまたユーモ



松元ヒロさん

執行委員 鈴木 大介

### 分かるかな？ 懸賞クイズ



明日の天気が気になった私は、3人の予報官に明日の天気は晴れか雨かの予想を聞くことにしました。3人の予報官は以下のように言います。

A 「私の予想は70%も当たります」  
B 「私の予想は50%当たります」  
C 「私の予想は10%しか当たりません」

さて、だれの予想を聞けば一番高い確率で明日の天気がわかるでしょう？

632号の回答「英和辞典の中」

4名からの応募があり、1名が正解でした。以下に図書カードを進呈します。

萩原 幸一（シンケン分会）

633号の締め切り日は10月17日（木）です。ふるってご応募ください。

ラスに表現される芸風は、故立川談志さんも「おまえを芸人と呼ぶ」と絶賛しました。

そんな中、本人は「(テレビ局から)声がかかれば出演したいのですが、声がかからないんです」と。その一方で、「(今の政治に疑問を持たれてる方から)ライヴは、結構お呼びいただいてガツポガツポと、と懐に手を差し込むジュエスチャーを交えながら、笑いを誘いました。また今年7月には、3か

月の密着取材をつけ、FNS九州8局で制作するドキコメント番組が九州地方を中心に放送されました。

今回公演された「元号令和」「憲法くん」などのネタからは、彼の中にある「弱きを助け、強きをくじく」の信念と優しさが表現されています。

憲法の大事さを表現する「憲法くん」は20年間演じられ、本人曰く、「安倍さんや、麻生さんにもわかるように最近絵本にもしました」と会場は大爆笑の渦に。是非ともお薦めしたい芸人です。